

デートDVはなぜ起るの？

アウェア代表 エロガン

DVは力と支配

DVは「力と支配」です。力を使って相手を自分の思い通りに動かすことです。そのために手段として、からだへの暴力を含めてさまざまな力を選択するのです。デートDVはセックスがきっかけで始まることが多いようです。セックスすることによって相手を自分のものになったと考えたり、親密な関係になったと勘違いしたりして、相手への支配と依存が始まります。相手に自分の欲求を押し付け、欲求が満たされないと力を使って相手をコントロールしようとしてます。そのためにはからだへの暴力さえ使っていないと考えます。親密な関係の人に対してはそうしてかまわないというまちがった考え方をもちことからDVは起るのです。

DVとジェンダー・バイアス

DVは同性愛者のカップルにも起こります。女性が相手の男性にDVする場合もあります。しかし女性と男性のカップルではDV

をするのは男性が多いのです。それは男性優位の社会の中で、人々がジェンダー・バイアスをもって暮らしているからです。別の言葉で言うと「女らしさ・男らしさの決め付け」です。この決め付けは、親密な関係のふたりの性別役割を固定するだけでなく、女性を男性より一段低く見る意識につながりがちです。親密な関係では男性が女性をリードするものだから、男性の面倒をみるのが愛情であり女らしさなどというまちがったことを男性も女性も社会から学びがちです。

DVと暴力容認意識

暴力は愛情ではありません。暴力は犯罪です。暴力は相手を深く傷つけるし関係を壊します。しかし条件つきで暴力を許してしまう人は多いです。それは社会にあまりに暴力が溢れているので慣れてしまっているからです。その結果、手っ取り早い問題解決方法として暴力をふるったり、周りの人が暴力をふるう人の言い訳を認め

られても許してしまったりします。暴力をふるっていい理由などありません。暴力をふるわれても仕方ない人などいません。「暴力はけつしてしない」、「どんな理由があつても暴力はいけない」、「どんなに好きで大事な人でも、もし暴力をふるったらその行為をけつして許さない」という決意が、実は私たち一人ひとりに必要なのです。

デートDVをする人、される人にならないために

女性への差別のない社会に変えること、大人たちがまちがった価値観を変えること、子どもたちがまちがった価値観に気づき、相手を尊重する健康な関係について学ぶことなどが重要です。尊重するということとは、自分と違う相手の考え方や価値観などを受け入れることです。私たちは皆自分のことは自分で決める権利があります。お互いの自己決定権を尊重し、縛り合うのではなく、お互いにしたいことができるように支えあう、励ましあうことが本当の「愛」だと私は思います。こんなことも親子で話し合ってみてください。

一人で悩まずに相談しよう

DVの相談窓口

- 西東京市の窓口
 - ・男女平等推進センター パリテ
 - 午前9時～午後5時
 - 042(439)0075
 - ※土日・祝日・年末年始を除く
 - ・配偶者暴力相談支援センター
 - 東京ウイメンズプラザ
 - 午前9時～午後9時
 - 03(5467)2455
 - ※年末年始を除く
 - ・東京都女性相談センター
 - 多摩支所
 - 午前9時～午後4時(月～金)
 - 042(522)4232
 - ※土日・祝日・年末年始を除く
 - ・東京都女性相談センター
 - 午前9時～午後8時(月～金)
 - 03(52261)3110
 - ※土日・祝日・年末年始を除く
 - その他・夜間・緊急
 - ・全国共通DVホットライン
 - 午前10時～午後3時(月～土)
 - 0120(956)080
 - ・警察または交番 110番

山口のり子さん

プロフィール

1950年生まれ。アメリカで、大学院で臨床心理を学ぶとともに、DV加害者プログラムのファシリテーター向けトレーニングなどを受ける。2002年「アウェア」を開設、DV加害者プログラムを開始、03年からはデートDV防止教育を始める。

主な著書

- *『愛する、愛されるデートDVをなくす・若者のためのレッスン7』
- *『DV あなた自身を抱きしめて—アメリカの被害者・加害者プログラム』等